



伊豆中央ロータリークラブ ROTARY CLUB OF IZU-CHUO

週報 第2621回例会

2020.9.8(火) 於 サンバレー富士見

2020-21

RI 会長 柿が-・つぐ ガバナー 志田 洪顯
会長 土屋 雄三 幹事 土田 哲
会報委員会 兵藤 弘昭・木内 昭夫 望月 隆一

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 小野住環境ビル 2F
TEL (055) 976-6351 FAX (055) 976-6352
例会場 ホテルサンバレー富士見 静岡県伊豆の国市古奈 185-1
TEL (055) 947-3100 FAX (055) 947-0564

URL www.izuchuo-rc.org

写真： 柿田川（伊豆半島ジオパーク）

会長のひとりごと

会長 土屋雄三



先週の例会では、少子高齢化社会が進む日本では、独り住まいのお年寄り、また、引きこもり老人が増えております。地域ごとにベンチを設置する活動を紹介していただきました。近頃、健康寿命・健康年齢という言葉がちょくちょく使われるようになりました。女性で平均12年、男性で9年、亡くなる前、介護が必要な期間があるようです。健康年齢は、人と人が交わることが一番効果があると言われております。ベンチが与えてくれる可能性、人と人との繋が

りの場所、コミュニティーの場所として効果があった事例等紹介していただきました。年々、年を取っていく私たちにとって、交流ができる場所の提供は過ごしやすい街にするためにも面白い活動であると思っています。翌日、社協の贈呈式での話の中で、コロナ禍により非正規雇用者の所得減少は、子育て世代、特にひとり親家庭の現状は大変厳しい状況にあるようです。この地域にもそのような現実が存在するという身近な問題を知る機会になりました。板垣課長の卓話で、フードバンク、フードドライブの話をしていただきました。どこまですべきかという議論もあると思います。あくまでもできる範囲で、私たちが個々に奉仕を考える機会になったのではないかと思います。

今週の土曜日(19日)は彼岸の入りです。日本では、カルト宗教は別として、仏教、神道、キリスト教、或いは新興宗教等、宗教選択の自由が与えられ、宗教によって、時には励まされ、時には悔い改め、反省や戒めなど手を合わせるにより、心のよりどころになっていることも多いと思います。キリスト教は毎週日曜に教会に行く習慣があるように、世界の3人に1人がイスラム教徒という、ムスリムは1日5回の礼拝の義務があり、近頃ではどこのエアポートにも礼拝所が存在するようになっています。余談ですが、私の会社でも、4名のムスリムのインドネシア人が頑張ってくれております。皆、愛想よく、心優しい子たちで大変助かっております。一方、日本では無宗教という人も少なくないと思います。日本では核家族化が進み、産業構造も変化した影響もあるかと思いますが、毎月そのような礼拝する習慣はありません。しかしながら、お盆や、年に2回、お彼岸があり、お墓の参りやご先祖様に対して供養する習慣があります。これは宗教関係なく自分の先祖に対し敬意、なくなった先祖をしのお期間です。また、日々の生活への感謝の心を籠める日だと思っています。私も心新たに今週末お努めしたいと思います。

雨宮直前会長だったら、もっと詳しく、分かりやすい解釈でのお話をされるかと思いますがこの辺でご理解いただきたいと思います。

	出席総数	出席率	会員総数
今回	20/25名	80.00%	25名

会員誕生日 玉置 敏 9月24日

- ・今回の欠席者：雨宮 演邦 石井 政一
小林 則行 兵藤 弘昭
山口 和拓

卓話

木内 昭夫、水谷 隆一



10月は米山月間です。ロータリー米山記念奨学会の前進について少し触れてみたいと思います。

先日、2550地区 栃木 RC から米山記念館に冊子が寄贈され、早速読ませていただきました。「栃木の偉人 古澤丈作」なるものです。ロータリアンで米山梅吉の名を知らない人はいないでしょうが、古澤丈作の名をご存知の方は、あまりいないでしょう。

この冊子によれば、1928（昭和3）年、日本、旧満州、朝鮮、当時の日本領地を一つとして第70区が設立された。まだ、東京、大阪、神戸、名古屋、京都、横浜、そして、京城（朝鮮）の7つのクラブしかない日本に地区が設けられ、初代ガバナーに米山梅吉が就任した。

その年の12月、大連ロータリークラブを創立し、初代の副会長に古澤丈作がなった。古澤は、自分だけでなく、会員さらには広く一般世間にも理解してもらうためのロータリーの6カ条の綱領、12条の倫理訓をまとめ上げ、大連クラブの「ロータリーの宣言」とし、クラブ内で唱和した。これが「大連宣言」として当時議論の旋風を巻き起こした。これは今読んでも真髓をうかがい知ることができます。

古澤は帰国後1952年東京ロータリークラブ会長であった時、戦争でアジア諸国に多大な迷惑をかけた贖罪や2度と戦争の過ちを繰り返さない為に、“平和日本”を、アジアに、そして世界に理解をしてもらおうと「米山基金」を提唱し、2年にわたる募金活動をし1954年、タイから第1号奨学生を招聘した。これが起点となって米山記念奨学会へと発展していった。

現在、年間800余名の奨学生に奨学金を支給し、また、各クラブがカウンセラーとしてお世話し、累計2万1千人にまでなった。年間事業費は14億円余（2018-19年度決算）と、民間最大の国際奨学事業に育ちました。その出身国は、実に世界129の国と地域に及んでいます。

スマイル報告

●土田哲会員

木内さん、水谷さん本日の卓話よろしくお願ひします。

（本日のスマイル合計 ￥4,000）